

来年度の検討課題について

本検討会は、平成 26 年度から平成 28 年度までの 3 ヶ年の予定で開催しており、1、2 年目に当たる平成 26 年度、平成 27 年度は南海トラフ沿いで発生する最大クラスの巨大地震（短周期地震動及び長周期地震動）に対する屋外タンク貯蔵所への影響を精査したところであるが、来年度の検討課題としては、以下のようなことが考えられる。

1 首都直下地震の想定地震動の影響に関する検討

平成 26 年度及び平成 27 年度は西日本を中心に大きな被害が予想される南海トラフ地震の影響を精査したところであり、来年度は、首都圏に大きな被害が予想され、かつ、内閣府（中央防災会議）から強震動波形の提供が行われている首都直下地震の想定地震動に対する耐震安全性を検討する。

この際、南海トラフ地震の想定地震動の時刻歴波形や加速度応答スペクトルと比較しつつ、今回の手法を用いて検討する。

2 屋外タンク貯蔵所の耐震安全性確保策に関する検討

南海トラフ地震に対する耐震安全性の検討については、解析のために一定の条件を設定して解析を行い、概ね致命的な被害はないとの評価であったが、本解析で前提とした条件の範囲を超えるような場合も完全には否定できないことや、今後、新たな知見を踏まえた想定地震動の変更も考えられることから、必ずしも安全性を担保するというものではないということに留意が必要である。

このことから、各事業者が自ら地震リスクを検証し、必要な改修を行う際に参考となるよう、南海トラフ地震及び首都直下地震の想定地震動に対する耐震安全性の検討結果も踏まえ、耐震安全性を確保する上で有効な対策について整理する。